

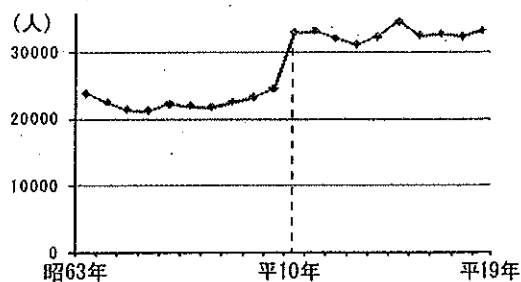
平成19年中における自殺の概要について

1 自殺

平成19年中の自殺の総数は33,093人で、前年に比べ938人（2.9%）増加（総数では、平成15年に次ぎ過去2番目）。

平成10年に3万人を超え、その後、10年連続して3万人台で推移。

過去20年間の自殺者数の推移



(1) 原因・動機別

	総数	原因・動機 特定者	原因・動機 不特定者
平成19年	33,093	23,209	9,884
構成比	100.0%	70.1%	29.9%

	家庭問題	健康問題	経済・生活 問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他
平成19年	3,751	14,684	7,318	2,207	949	338	1,500
構成比	16.2%	63.3%	31.5%	9.5%	4.1%	1.5%	6.5%

注）平成19年から改正した自殺統計原票を適用し、より自殺対策に資するよう自殺の原因・動機の項目を整理したほか、原因・動機が複合すると認められる場合には、複数の原因・動機（3つまで）を計上。

複数計上を可としたことにより、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数（23,209人）とは一致しない（一人当たり平均1.3件の回答）。したがって、前年との単純比較はできない。

- 原因・動機として、「健康問題」が最も多く、次いで「経済・生活問題」、「家庭問題」の順。
- それぞれの原因・動機の構成比の順位は、前年と変動がない。
- 「健康問題」の内訳では、「病気の悩み・影響（うつ病）」が最も多く、次いで「病気の悩み（身体の病気）」が多い。
- 「経済・生活問題」の内訳では、「負債（多重債務）」が最も多く、次いで「負債（その他）」が多い。

(2) 性別・年代別

	総数	男	女
平成19年	33,093	23,478	9,615
構成比	100.0%	70.9%	29.1%

	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	不詳
平成19年	548	3,309	4,767	5,096	7,046	12,107	220
構成比	1.7%	10.0%	14.4%	15.4%	21.3%	36.6%	0.7%
前年比	-75	-86	+270	+88	-200	+987	-46
増減率	-12.0%	-2.5%	6.0%	1.8%	-2.8%	8.9%	-17.3%
自殺率	2.3	22.0	25.4	31.9	38.1	33.7	—
前年比	-0.3	-0.2	+1.6	+0.0	+0.4	+1.7	—

概要資料
参照頁

3頁

2頁(表4)

5頁

5・6頁

2頁(表1)

2頁(表2)

		19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	不詳
原因・動機別 (上位3位)	1	学校問題 158	健康問題 1,277	健康問題 1,850	健康問題 1,829	健康問題 2,836	健康問題 6,735	健康問題 4
	2	健康問題 153	経済・生活 404	経済・生活 1,009	経済・生活 1,542	経済・生活 2,606	経済・生活 1,749	その他 3
	3	家庭問題 62	勤務問題 375	家庭問題 605	家庭問題 655	家庭問題 765	家庭問題 1,415	家庭問題 1

注) 自殺率は、人口10万人当たりの自殺者数を示す(自殺者数÷人口×100,000人)。
人口は、総務省統計局の人口推計月報(毎年10月1日現在)の総人口に基づく。

- 男性の占める割合が高い。特に、「経済・生活問題」、「勤務問題」で高い。
- 年代別では、「60歳以上」が最も多く、前年比でも987人(8.9%)の増加。
- 年代別の自殺率では、「50歳代」の割合が最も高い。

(3) 職業別

		自営業 家族従事者	被雇用者 ・勤め人	無職		不詳
				学生・ 生徒等	無職者	
平成19年		3,278	9,154	873	18,990	798
構成比		9.9%	27.7%	2.6%	57.4%	2.4%
原因・動機別 (上位3位)	1	経済・生活 1,807	健康問題 2,575	学校問題 294	健康問題 10,736	経済・生活 87
	2	健康問題 1,029	経済・生活 2,517	健康問題 280	経済・生活 2,879	健康問題 64
	3	家庭問題 382	勤務問題 1,715	家庭問題 68	家庭問題 2,192	その他 23

注) 自殺統計原票の改正により、職業の分類が改められたことから、前年との単純比較はできない。

- 「無職者」が多く、次いで「被雇用者・勤め人」の順。

(4) 自殺統計原票の改正により判明したこと

ア 原因・動機の項目の改正

(7) 健康問題

中では、「病気の悩み・影響(うつ病)」(6,060人、41.3%)が最も多い。男女差はほとんどない。

これを職業別でみると「無職者」が多く(4,160人、68.6%)、その内訳では、「その他の無職者」が最も多い(1,940人、46.6%)。

(1) 経済・生活問題

中では、「負債(多重債務)」が多く、負債の3分類のうち半数以上(52.9%)を占め、9割が男性で40歳代、50歳代が多い。負債が経済・生活問題に占める割合は、前年が62.7%、19年は51.0%であり、複数計上を可としたにもかかわらず11.7ポイント減少した。「借金の取り立て苦」

4～7頁

4頁
(補表2-1)

2頁(表3)

9～23頁

5頁

13頁

5・6頁

6頁

と「自殺による保険金支給」は計320人で、9割が男性。

(ウ) 家庭問題等

中では、「介護・看病疲れ」は、60歳以上が占める割合が一番高く、6割が男性。

また、学校問題の「いじめ」を原因・動機とするものは、14人。

イ 職業の分類の改正

(7) 無職者

「無職者」の中では、「その他の無職者」が最も多く、次いで「年金・雇用保険等生活者」が多い。その原因・動機で最も多いのは、いずれも「健康問題」。

なお、前年と比較できる「失業者」については、379人(27.5%)の増加。

(イ) 被雇用者・勤め人

原因・動機で最も多い「健康問題」の中では、「病気の悩み・影響(うつ病)」が最も多い(1,341人、52.1%)。

「経済・生活問題」では、「負債(多重債務)」が最も多い(1,009人、40.1%)。「勤務問題」では、「仕事の疲れ」が最も多い(571人、33.3%)。

(ウ) 自営業・家族従事者

「経済・生活問題」は、前年においても最も多く、複数計上を可とした平成19年も原因・動機全体に占める割合は、ほぼ同じ(昨年比+0.1%)。

(参考) 硫化水素による自殺事案(別途調査を実施)

平成19年中に硫化水素を発生させて自殺した自殺者数は以下のとおり。

	件数	人員	男	女
平成19年	27	29	23	6
平成20年(参考)	489	517	407	110
合計	516	546	430	116

※平成20年は5月末日現在

		19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	不詳
平成19年	男	2	13	3	3	2		
	女	2	2	2				
平成20年 (参考)	男	34	178	115	61	14	2	3
	女	17	54	28	7	3	1	
合計	男	36	191	118	64	16	2	3
	女	19	56	30	7	3	1	0
	計	55	247	148	71	19	3	3

○ 平成20年に急増している。20歳代が多い(45.2%)。

平成20年6月

平成19年中における自殺の概要資料

警察庁生活安全局地域課

